

教 育 研 究 業 績 書		
令和2年 9月 30日		
氏名 伊藤加世子 印		
研 究 分 野	研 究 内 容 の キ ー ワ ー ド	
教 育 上 の 能 力 に 関 する 事 項		
事項	年月日	概 要
1 教育方法の実践例 1. 京都府立南陽高校でのワークショップ	平成30年6月	京都府立南陽高等学校において高校英語教員と学生400名を対象にシャドーイング指導し、各学習者の音声を録音して分析後評価した。
2. フィリピンの英語教員に向けた高野山観光のプレゼンテーション	平成30年11月	高野山大学において、高野山の観光をテーマに英語プレゼンテーションを指導し、スカイプを通してフィリピンQQイングリッシュIT校の教員がその成果を評価するプログラムを実施した。
2 作成した教科書、教材	平成26年から平成28年まで	京都大学において開発したシャドーイング・システムで使用する英文教材を作成する。
3 教育上の能力に関する大学等の評価 1. 大学での評価	平成24年10月	大阪産業大学において学生自治会が主催した「教えるのが上手な先生」の学生投票で表彰される。
2. FD評価	平成13年から現在まで	2. 大阪産業大学、京都大学、高野山大学での学生授業アンケートは、4.2点以上の常に高い評価を受ける。
4 実務の経験を有する者についての特記事項 【講演】(1)比較文化とは—文学作品を中心に—	平成10年8月	ニューポート大学西日本校において、社会人向けの夏季特別講演を行う。「女性学」というテーマで、中世から近代英米の文学作品に描かれる女性像を採りあげながら、女性の人権問題を講演する。
【講演】(2)CALL教室におけるプレゼンテーション指導	平成17年5月	英知大学外国語教育センター主催、英知大学において、CALL教室におけるリスニングやライティングに使用できるシステムの機能を駆使し、英語が苦手な学習者を対象にした効果的なプレゼンテーション指導を実施する方法について英語教員を対象に講演する。
【講演】(3)シャドーイング指導の実践—明日から使うためのコツ—	平成18年7月	関西英語教育学会(KELES)主催、関西大学において、中学、高校教員を対象として、CALL教室を使用したシャドーイング学習の指導法を実際に機材を使用しながら講演する。参加にはKELESから修了証を授与された。
【講演】(4)英語プレゼンテーション能力向上のための発音矯正・論文等自動音声変換システムの構築	平成26年5月	平成26年度国立7大学外国語教育連絡協議会合同シンポジウム主催、仙台市内において、京都大学総長裁量経費(B)で伊藤佳世子が開発した新システムの紹介とそれを導入した授業方法に関して講演する。
【講演】(5)童話の物語文法	平成26年11月	京都聖母女学院短期大学主催で同校において、児童教育学科の学生を対象として、日欧の童話を比較しながら童話文法の基礎について講演する。童話の学習に関して提出されたレポートを講演後にフィードバックした。

【講演】(6)シャドーイング訓練をユビキタスに自主学習できるシステムの構築と実践	平成27年4月	大学英語教育学会（JACET）関西文学教育研究会主催、同志社大学において、学生がシャドーイングをしたい時に、携帯電話やタブレットからいつでも何処でも音声教材を入手、録音提出、さらに学習時間を個別に教員は確認することができるシステムを京都大学で構築した。そのシステムの詳細と教材、それを使用し2014年10月1日から全34クラス980名を対象にした、シャドーイング訓練後の効果に関して講演した。
【講演】(7)童話の秘密と絵本	平成28年1月	京都聖母女学院短期大学主催、同校において児童教育学科の学生を対象として、絵本作りに役立つ童話文法について講演をした後、実際に絵本作りを指導する。
【講演】(8)シャドーイングを活用した話すこと(発表)と話すこと(やりとり)活動の設計の一検討	平成30年1月	次世代大学教育研究会主催、琉球大学での第138回研究大会において、小学校英語において導入された5領域に関して、リスニング力やスピーキング力を高めるための効果的なシャドーイング指導法を講演する。
【講演】(9)英語学習者音声データの収集と自動評価の検討ー母語話者による評価と自動評価の違いを中心にー	平成30年2月	大学英語教育学会（JACET）関西文学教育研究会主催、同志社大学において、学習者の音声データを収集する際に生じるweb環境等の様々な問題点とその解決方法、また自動評価と手動評価の結果に関して講演する。
【ワークショップ】(1)「音声」を生かした効果的なリーディング指導を探る	平成17年10月	大学英語教育学会（JACET）関西支部大会主催、神戸大学での2005年関西支部秋季大会ワークショップにおいて音読やシャドーイングを使用したリーディング指導を公開する。（パネリスト：氏木道人、西田晴美、倉本敦子、伊藤佳世子）
【シンポジウム】(1)Seeking for Effective Instruction for Reading: The Impact of Shadowing and Reading-aloud Tasks. (訳：リーディングに効果的な指導法を求めてーシャドーイングと音読が及ぼす影響)	平成18年3月	An International Joint Forum on 1st and 2nd Language Sciences主催、ハワイ大学において、英語力を高めるためのシャドーイングと音読を使用する効果的な学習方法についての講演する。（パネリスト：倉本敦子、氏木道人、西田晴美、伊藤佳世子）
【シンポジウム】(2)効果的な読解指導法を求めて：音読・シャドーイングが及ぼす影響	平成18年6月	外国語教育メディア学会（LET）主催、京都産業大学での第46回全国研究大会主催において、音読とシャドーイングのどちらがリーディング力の進捗に影響するかについて発表する。（パネリスト：倉本敦子、氏木道人、西田晴美、伊藤佳世子）
【シンポジウム】(3)アーサー・ミラーの悲劇についてー‘belonging’を中心にー	平成18年12月	関西英語英米文学会主催、大阪産業大学での第51回大会において、アメリカの劇作家3名を採りあげそれぞれの悲劇性について発表する。伊藤担当はArthur Miller。（パネリスト：伊藤佳世子、清水順子、大野久美）
【シンポジウム】(3)How Does Shadowing Influence the Reading Comprehension for EFL Learners? (訳文：シャドーイングが外国語としての英語学習者にとって読解力にどのように影響するのか?)	平成20年8月	International Association of Applied Linguistics (AILA)主催、ドイツ・エッセン大学でのThe 15th World Congress of Applied linguistics Symposiumにおいて、読解力を上げるためには多読だけではなく、シャドーイングをすることによって、ボトムアップ処理がスムーズに行えるようになり読解力の進捗が効果的に行えることを分析し検証した。（パネリスト：伊藤佳世子、門田修平、倉本敦子、長谷尚也、氏木道人）
【シンポジウム】(4)翻訳表現の可能性を探る	平成26年6月	日本英語表現学会主催、武蔵大学での第43回全国大会において、日本文学、英文学、緊急告知の英語、英語教育の観点から翻訳を考える。伊藤は「エッセイ・ライティングからプレゼンテーションへの指導」を担当。（パネリスト：伊藤佳世子、吉田雅之、梅宮悠、新井恭子）
【シンポジウム】(5)Strengthening English Listening Skills: The development of self-study shadowing system for tablets and smart phones (訳文：英語リスニングスキルの強化：タブレットおよびスマートフォン向けの自習学習用シャドーイングシステムの開発)	平成27年8月	Foreign Language Education and Technology (FLEAT)主催、アメリカ・ハーバード大学でのInternational Conference VIにおいて、京都大学で開発したシステムとそれを使用した学習法について開発メンバーと共に発表する。（パネリスト：伊藤佳世子、Jennifer Teeter、仲野基紀）

5 その他		
(1) 京都大学総長裁量経費(A)獲得	平成23年9月	「TOEICレベルアップ夏季集中講座—プラス100点を目標に—の開催」(651千円)同講座を平成25年9月まで講師として務める。平成26年度から平成29年度まで同集中講義の責任者を務める。(1995千円)
(2) 京都大学総長裁量経費(B)獲得	平成26年3月	「リスニング力強化のためにシャドーイング訓練を自主学習するシステムを構築する」(10300千円)京都大学において、何時でも何処でも発音学習できる英語e-learningシステムの開発責任者を務める。
(3) 京都大学総長裁量経費(C)獲得	平成26年8月	「発音矯正システムおよびリスニング・システムを用いた英語プレゼンテーション能力向上のためのトレーニング・システムの構築」(24900千円)京都大学において、発音矯正およびプレゼンテーション原稿を人工音声に変換し、プレゼン練習をするためのe-learningシステムの開発責任者を務める。
(4) 文部科学省科学研究費補助金基盤(B)獲得	平成28年4月	「自律的な英語シャドーイング学習を目指した自動評価と教材データベースの開発」 e-learningで学習した発音を、自動的に評価するためのシステム開発と、学習者が聞き取りにくく発音しにくいパターンを集めてテキスト化することを目指した研究。課題番号：16H03447 研究代表：伊藤佳世子
(5) 大学英語教育学会(JACET)関西支部 Reading研究会代表を務める	平成27年4月から平成29年3月まで	大学英語教育学会関西支部 リーディング研究会で2年間代表を務め、関東支部の語彙研究会と辞書研究会と共に合同研究大会を立ち上げ現在まで継続している。
(6) 日本学術振興会 科学研究費事業の審査委員	令和元年12月	科学研究費基盤(C)の審査をする。

職務上の実績に関する事項

事項 年月日 概要

2 特許等		特記事項なし
-------	--	--------

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書) 1. 決定版 英語エッセイライティング	共著	平成17年12月	コスモピア (全216頁)	英語エッセイ・ライティングの基礎からプレゼンテーションへ繋がる手法についての参考書。(執筆担当部分：pp50-61、pp. 89-87、pp. 172-196、pp. 214-215) 監修著者：門田修平 著者：伊藤佳世子、氏木道人 ISBN: 4-902091-37-2
2. The Play Writing of Eugene O'Neill —Its Process and Technique (訳文：ユージン・オニールの劇作品—劇作過程と手法)	単著	平成19年9月	BOOK EAST (全122頁)	米劇作家Eugene O'Neillの数作品を、手書き原稿と出版された原稿とを比較し、登場人物の発話行為やト書の特徴の観点から分析している。ISBN: 978-0-9647040-8-4
3. 「夫婦の危機」からの脱出—我が子を亡くした夫婦達の物語—	共著	平成20年1月	北星堂 (全319頁)	オハイオ大学対人コミュニケーション学科の教授であるJudy C. Pearsonの家族と性、家庭内コミュニケーションについての著書を翻訳した。(執筆担当部分：pp. 145-171、pp. 205-238、全章の校正) 著者：中林良雄、伊藤佳世子、北風文字他 ISBN: 978-4-590-01226-1

4. Power Charge for the TOEIC TEST	共著	平成21年10月	金星堂 (全120頁)	TOEIC 650点を目指しReadingとListening両方を網羅した問題集。 (共同研究につき抽出不可：全ユニットの写真問題、文法問題、長文問題、教師用解説について執筆) 著者：西田晴美、吉田佳代、伊藤佳世子 ISBN:978-4-76473-874-4
5. Alice's Adventures in Wonderland (訳文：不思議な国のアリス)	共著	平成22年3月	英光社 (全141頁)	イギリスの名著を英語の文法や語法はもとより、当時の人々の暮らし、文化、政治等を解説する。(執筆担当部分：pp:130-141. テキスト全ての注釈部分) 著者：丸橋良雄、伊藤佳世子 ISBN:978-4-87097-129-5
6. 比較文化の饗宴	共著	平成23年3月	英光社 (全214頁)	米劇作家Eugene O'Neillの数少ない喜劇作品を採りあげ上演に向けての工夫をテキストから考察している。 (執筆担当部分：「Eugene O'Neillのコメディ―Ah, Wilderness!上演スクリプトから見えるもの」 pp.198-209) 監修：丸橋良雄 著者：坂東美千代、伊藤佳世子、日高真帆他) ISBN:978-4-87097-143-1
7. The Next Stage To The TOEIC Test. Intermediate (訳文：TOEICへの次へのステップ、中級編)	共著	平成23年10月	金星堂 (全120頁)	TOEIC 5000点を目指しReadingとListening両方を網羅した問題集。 (共同制作につき頁抽出不可：全ユニットの写真問題、文法問題、長文問題、教師用解説、校正) 著者：ハーバート久代、伊藤佳世子、村上裕美、John Herbert) ISBN:978-4-76473-920-8 *ECCと近畿大学が統一教科書として採用する。*明治大学入試問題として伊藤担当部分が採用される。
8. Get It, Essay Writing (訳文：理解しよう、エッセイ・ライティング)	共著	平成25年4月	大阪教育図書 (全76頁)	リーディング教材を使用し、アカデミック・ライティングの書き方と効果的なプレゼンテーションの手法を示したライティング総合教材。 (共同制作につき頁抽出不可：全ユニットの練習問題、文法解説、校正、教師用解説について執筆) 著者：時岡ゆかり、伊藤佳世子、Martin Wetherby、門田修平 ISBN:978-4-271-41010-2
9. 英検4級頻度別問題集	単著	平成27年4月	高橋書店 (全160頁)	英語検定4級における過去の頻出パターンを抽出し、一問一答式で練習問題すべてに日本語訳と解説を付けた教本。 ISBN:978-4-471-43064-1
10. 比較文化 グローバルコミュニケーション	共著	平成27年5月	英光社 (全103頁)	文学、教育、演劇の専門家がグローバルコミュニケーションの観点から執筆している。(担当部分はすべての査読、校正、監修) 監修：丸橋良雄、伊藤佳世子、佐川昭子 ISBN:978-4-87097-171-4
11. Fairy Tales-童話で学ぶ英語の四技能-	共著	平成27年9月	英光社 (全69頁)	4つの童話を使用して英語の四技能(読む、書く、聞く、話す)を高める総合教材。 (共同制作につき頁抽出不可：全ユニットのコラム、練習問題、英作問題、校正、教師用解説について執筆) 著者：丸橋良雄、伊藤佳世子、能勢卓、立本秀洋、西美津子 ISBN:978-4870971738

12. ミステリーを読んで英語のスキルアップ 3	共著	平成30年10月	英宝社 (全110頁)	文学作品に親しみながら、ライティングの基礎から始まりパラグラフ・ライティングが書けるように構成されている。 (共同制作につき頁抽出不可：主に全ユニットの校正) 著者：吉村俊子、時岡ゆかり、平田三樹子、Susan Jones、Jennifer Teeter、 <u>伊藤佳世子</u> ISBN:978-4-269-02151-8
13. 比較文化から観るグローバル化	共著	令和元年9月	英光社 (全126頁)	劇作家Eugene O' Neillは表現主義的作家であると言われているが、彼自身はどのように考えていたのかを手紙や対話から検証した。 (執筆担当部分：「ユージン・オニール劇の文芸上の位置」pp. 51-58) 監修：丸橋良雄 著者： <u>伊藤佳世子</u> 、立本秀洋、坂本輝世 ISBN:978-4-87097-194-3
14. 混沌と共存する比較文化	監修・共著	令和2年11月	英光社	(執筆担当部分：「Development and Implementation of Shadowing Text for Classes With Great Disparity Between Learners in English Proficiency」pp.) 監修：丸橋良雄・ <u>伊藤佳世子</u>

(学術論文) 1. Eugene O' Neillの表現主義におけるdialogue —The Hairy Apeを中心に—	単著	平成10年3月	英知大学大学院 修士論文	Eugene O' Neillの初期作である <i>Hairy Ape</i> 『毛猿』(1922)を採りあげ、彼のdialogueの特徴である準詩的散文スタイルについて考察した。
2. 「EUGENE O' NEILLのドラマにおける準詩的散文スタイルをめぐって—MAXWELL ANDERSONと比較して—」 (査読付)	単著	平成11年9月	STUDIES IN THE HUMANITIES Vol. 1, No. 1(英知大学大学院論叢) 第1巻 第1号 英知大学大学院人文科学研究科 pp. 101-115	Eugene O' Neillの表現主義的な幾つかの作品とMaxwell Andersonの <i>Winterset</i> (1953)を比較し、反体制、反伝統、反規範に関する描写を考察した。 ISSN:1345-1049
3. 「Eugene O' Neillのユーモア—『日陰者に照る月』の場合—」 (査読付)	単著	平成12年3月	賢明女子学院短期大学 研究紀要 第35号 pp. 53-62	Eugene O' Neillのリズミカルな言葉遊びで展開される <i>Moon for the Misbegotten</i> 『日陰者に照る月』(1947)から、この作品のユーモアや劇的アイロニーとはどのようなものであるかを考察した。 ISSN:0288-1187
4. 「オニール と 語法—“Hughie”を中心に—」 (査読付)	単著	平成12年9月	STUDIES IN THE HUMANITIES Vol. 2, No. 1(英知大学大学院論叢) 第2巻 第1号 英知大学大学院人文科学研究科 pp. 125-140	Eugene O' Neill晩年作の <i>Hughie</i> 『ヒューイ』(1941)において、書記言語上の慣行(conventions of writing)のひとつである引用符を使用した直接語法による報告と間接語法による報告での意図的な違いについて考察した。 ISSN:1345-1049
5. 「語り手の役割について—Tennessee Williamsの場合—」 (査読付)	単著	平成14年10月	大阪産業大学論集 人文科学編第108号 大阪産業大学 pp. 1-10	Tennessee Williamsの <i>The Street Cars Named Desire</i> 『欲望という名の列車』(1942)と『あるマドンナの肖像』(1947)を採りあげ、劇中に入らない情報の処理に関して二作品を比較しながら考察した。 ISSN:0287-1378
6. 「CALL教室における英作文指導から発表まで」	単著	平成17年1月	外国語教育の現場から (SILEC) No. 6 英知大学 (全25頁)	英知大学へのCALL教室の導入に際し、そのシステムを使用した効果的なwriting指導の手法を英語教員に紹介した。あわせて効果的な指導法としての1年間の講義シラバスも配布した。
7. 「奇なるもの“FOG”の効果 —Anna Christieにおける霧の役割—」 (査読付)	単著	平成17年2月	サピエンチア英知大学 論叢第39号 英知大学 pp. 87-99	Eugene O' Neillが「霧」の描写を効果的に使用した幾つかの作品を採り挙げ、「語り」と「霧」が持つイメージの相乗効果について考察した。 ISSN:0286-2204
8. 「日本人英語学習者の発話データにおける談話連結詞の頻度分析」 (査読付)	共著	平成17年5月	Justice and Mercy (関西レビュー 第23号) 関西英語英米文化学会 (全561頁)	英語学習者のスピーキングコーパスを対象に、談話連結詞の出現頻度が学習者の英語運用レベルによってどのように変化するかについて検証した。 (執筆担当部分：共同研究につき本人担当部分抽出不可 pp. 449-462) 執筆者：氏木道人、伊藤佳世子、門田修平 ISSN:09122516

9. 「オニール劇のプロット展開と語りー『アナ・クリスティー』を中心に」(査読付)	単著	平成17年9月	STUDIES IN THE HUMANITIES Vol. 7, No. 1(英知大学大学院論叢) 第7巻 第1号 英知大学大学院人文科学研究科 pp. 73-86	Eugene O' Neillの <i>Anna Christy</i> 『アンナ・クリスティー』(1921)を採りあげ、過去の出来事を舞台で表出するプロット展開をどのように工夫しているかについて考察した。 ISSN: 1345-1049
10. 「『セールスマンの死』と『みんな我が子』における父子の帰属感」(査読付)	単著	平成18年12月	STUDIES IN THE HUMANITIES No. 8 (英知大学大学院論叢) 英知大学大学院人文科学研究科 pp. 39-55	Arthur Miller の <i>All My Sons</i> 『みんな我が子』(1947)と <i>Death of a Salesman</i> 『セールスマンの死』(1949)を採りあげ、自己の存在意義を見出すための帰属感を効果的に描写するためにどのような工夫がされているかについて考察した。ISSN: 1345-1049
11. 「オニール劇における文学性と演出性ート書の意義ー」(査読付)	単著	平成18年2月	サピエンチア英知大学論叢 第40号 英知大学 pp. 105-116	Eugene O' Neillは作品の上演において、作家と演出家の優位性に関して、どのような考えを持っていたのかを、多様な実験手法を試みた経緯から考察した。 ISSN: 0286-2204
12. Seeking for Effective Instructions for Reading: The Impact of Shadowing, Text-presented Shadowing and Reading-aloud Tasks 「効果的な読解指導法を求めて: 音読・シャドーイングが読解に及ぼす影響(授業力-大学全入時代の大学英語教師)」(査読付)	共著	平成19年3月	LET関西支部研究収録集 第11号(2006) 外国語教育メディア学会関西支部 pp. 13-27	シャドーイングと音読の実践から、どちらが読解能力に影響を与えるかを、学習者のレベルを3つに分け、それぞれに応じて実証した。 執筆担当部分: 「(共同研究につき本人担当部分抽出不可)著者: 倉本敦子、氏木道人、伊藤佳世子、西田晴美 ISSN: 0915-9428
13. 「短編小説家オニールとドラマツルギーの萌芽ー手書き原稿 “Tomorrow” の検討ー」(査読付)	単著	平成19年2月	サピエンチア英知大学論叢 第41号 英知大学 pp. 289-304	Eugene O' Neillの短編小説 <i>Tomorrow</i> 『明日』(1916)の手書き原稿と出版されたテキストとを比較し、小説の地の文がト書にどのように影響しているかを考察した。 ISSN: 0286-2204
14. 「シャドーイングを活用した英・仏語教育」	共著	平成20年12月	外国語教育の現場から(SILEC) No. 9 Center for Cross-Cultural Exchange St. Thomas University (全78頁)	英文科と仏文科の学生を対象にし、それぞれに適したshadowingを使用した学習方法はどのようにすれば良いかを実証した。 (執筆担当部分: 英語教育部門担当 pp. 4-11) 共著者: 伊藤佳世子、武田裕紀
15. 「音読・シャドーイングを活用した異なる読解指導法間の比較ー短期・中期指導の分析ー」(査読付)	共著	平成20年3月	Studies in English Language Teaching No. 31 (英語教育研究) 関西英語教育学会(KELES) pp. 37-46	音声指導がリスニング力のみならずリーディング力育成に関しても同様に効果をもたらすという仮説を検証している。 (執筆担当部分: 共同研究につき本人担当部分抽出不可)執筆者: 倉本敦子、氏木道人、西田晴美、伊藤佳世子 ISSN: 0919-2662
16. 「シャドーイングにおける発音のメカニズム」(査読付)	単著	平成21年3月	KANSAI REVIEW 第25・26合併号 関西英語英米文学会 pp. 41-49	シャドーイング訓練時に、日本人学習者の共通した発音ミスを生声データーを手動評価して検出した。そして何故そのようなミスが生じるかについてそのメカニズムを考察した。 ISSN: 0912-2516

17. 京都大学TOEIC受験夏季集中講座報告書—学習者の弱点分析と指導法—	単著	平成23年10月	京都大学国際高等教育院 (全162頁)	京都大学全学部を対象にしたTOEIC夏季集中講座(8月22日から9月2日)において、学習者が苦手とするPartや問題傾向を抽出分析し、それらを克服するために実施した指導法について報告している。
18. Automatic Scoring of Shadowing Speech Based on DNN Posteriors and Their DTW. 「DNNポステリアスとそのDTWに基づくシャドーイング音声の自動評価」	共著	平成29年	INTERSPEECH 2017 INTERSPEECH(電子版) pp. 1422-1426	工学技術を使ってシャドーイング音声の自動評価を実施し、手動評価との相関を検証した。(執筆担当部分: 共同研究につき本人担当部分抽出不可) 筆者: Junwei Yu, 山内豊, 斎藤大輔, 伊藤佳世子, 峯松信明, 他 (電子版のため全頁記載なし)
19. Toward Automatic Evaluation of Shadowing Data : Evaluation of Teachers' Rating for Students' Shadowing Data 「英語シャドーイング音声の自動評価に向けて: 教員による評価データの分析を中心に」	共著	平成29年9月	信学技報 Vol.117 No. 218 (思考と言語) 電子情報通信学会技術研究報告 (IEICE technical report) pp. 13-18	シャドーイング文の難易度や学生が発話できない箇所の分析や、アライメント処理により、学習者音声モデル音声からどれくらい遅れて発話されているかについて分析をした。 (執筆担当部分: 共同研究につき本人担当部分抽出不可) 筆者: 坪田康, 伊藤佳世子 ISSN: 0913-5685
20. An Analysis on Shadowing Data Evaluation of English 「英語シャドーイング音声評価データの分析」(査読付)	共著	平成30年度3月	言語学習と教育言語学 2017年度版 日本英語教育学会・日本教育言語学会合同編集委員会 pp. 45-51	シャドーイングの自動評価の予備的な検討として学習者の音声データをもとに、英語教員が留意すべき発音の確認を抽出し、課題文の提示について考察している。 (担当箇所: 共同研究につき本人担当部分抽出不可) 筆者: 坪田康, 伊藤佳世子 ISBN: 978-4-905166-11-5
21. Recent Developments in the ESL Reading Acquisition and Instruction 「第二言語リーディング指導と学習」(6. リーディング授業で文学教材を使用する有用性)(査読付)	共著	平成30年3月	JACET Kansai journal 大学英語教育学会関西支部 pp. 69-80	外国語学習においてこれまで敬遠されがちな文学教材が、いかに効果的な教材として使用できるかについて論じた。(執筆担当部分: Recent Developments in the ESL Reading Acquisition and Instruction 「第二言語リーディング指導と学習」6. リーディング授業で文学教材を使用する有用性) (著者: 川崎真理子, 伊藤佳世子, 門田修平, 他) ISSN: 1880-2281
22. An Experimental Study of Influence of Classroom Babble Noise on Automatic Assessment of Learners' Shadowing Speech. 「教室内雑音が学習者シャドーイング音声の自動評価へ及ぼす影響に関する実験的検討(信号処理)」(査読付)	共著	平成31年3月	信学技報 Vol. 118 No. 495 電子情報通信学会技術研究報告 (IEICE technical report) pp. 113-118	音声録音の際に生じる様々な雑音に関して検証し、その解決策を検討した。 (執筆担当部分: 共同研究につき本人担当部分抽出不可) 著者: 権島優, 斎藤大輔, 峯松信明, 山内豊, 伊藤佳世子 (全頁) ISSN: 0913-5685
23. Eugene O' Neill and His Pursuit of the Perfect Stage Performance 「ユージン・オニールが求めた究極の上演」(査読付)	単著	令和元年6月	英語表現研究 第36号 日本英語表現学会 pp. 1-15	上演に関わる劇作家のあるべき姿とはどのようなものであるのかとEugene O' Neillは考えていたのかを日記、会話、手紙から分析し検証している。 ISSN: 0910-4275

24. 高野山大学における英語指導の実践報告とシャドーイング指導法の検討 “Practical Report on English Instruction at Koyasan University and Examination of Shadowing as a Teaching Method” (査読付)	単著	令和2年3月	高野山大学論叢 第55号 高野山大学 pp. 81-90	1年生と2年生の英語クラスを対象に、高野山独自のシャドーイング教材を作成し、教室での指導の後、webを使用してシャドーイング訓練した効果を分析し今後の指導法を呈示している。
25. シャドーイング音声自動評価における耐雑音化と回帰を用いた高精度化	共著	平成30年7月	研究報告音声言語情報処理(SLP)123号 電子版 pp. 1-6	バブルノイズが含まれる環境での音声録音に関して、シャドーイング音声を対象とした自動評価において、耐雑音性能向上の検討を行った。 (執筆担当部分:共同研究のため抽出不可) 著者: 椛島優、齋藤大輔、峯松信明、山内豊、伊藤佳世子
(その他) 【発表】(1) 奇なるもの “fog” の効果—Anna Christieにおける霧の役割	-	平成16年6月	日本演劇学会主催	成城大学で2004年日本演劇学会春の全国大会において、Eugene O’Neillが「霧」の描写を効果的に使用した幾つかの作品を採り挙げ、「語り」と「霧」が持つイメージの相乗効果について考察した。
【発表】(2) Eugene O’Neill 語り手の役割について	-	平成16年12月	関西英語英米文学会主催	大阪産業大学での第50回大会において、Tennessee WilliamsのThe Street Cars Named Desire『欲望という名の列車』(1942)と『あるマドンナの肖像』(1947)を採りあげ、劇中に入らない情報の処理に関して二作品を比較しながら考察した。
【発表】(3) オニール劇のプロットとストーリー	-	平成17年3月	言語文化研究会主催	英知大学での年次大会において、Eugene O’NeillのAnna Christy『アンナ・クリスティ』を採りあげ、プロット展開をどのように工夫しているかについて発表する。
【発表】(4) CALL教室におけるプレゼンテーション指導	-	平成17年5月	英知大学外国語教育センター主催	英知大学において、CALL教室におけるリスニングやライティングに使用できるシステムの機能を駆使し、英語が苦手な学習者を対象とした効果的なプレゼンテーション指導を実施する方法について英語教員を対象に講演する。
【発表】(5) CALL教室でのシャドーイング実践	-	平成18年	関西英語教育学会 (KELES) 主催	第10回記念研究大会において、Calaboを使用したシャドーイング実践の仕方に関して発表する。
【発表】(7) オニールのト書—Tomorrowを中心に—	-	平成18年6月	日本演劇学会主催	成城大学での2006年春の全国大会において、Eugene O’Neillの短編小説“Tomorrow”『明日』の手書き原稿と出版されたテキストとを比較し、小説の地の文がト書にどのように影響しているかを発表する。
【発表】(8) シャドーイングを利用した英・仏語教育	-	平成18年8月	第46回外国語教育メディア学会 (LET) 全国研究大会主催	京都産業大学において英語とフランス語の指導において、音読とシャドーイングのどちらがリーディング力の進捗に影響するかについて発表する。

<p>【発表】 (9) Eugene O' Neill 削除だらけの原稿</p>	-	平成21年6月	関西英語英文学会主催	大阪産業大学での第53回大会において、Eugene O' Neillの創作過程に着目し、様々なドラフト原稿をもとにテキストの削除の仕方を分析し作品の特徴を発表する。
<p>【発表】 (10) Strengthening English listening skills: The development of a self-study shadowing system for tablets and smart phones (訳: リスニング力強化のためにシャドーイング訓練を自主学習するシステムを構築する)</p>		平成27年8月	Foreign Language Education and Technology (FLEAT)	ハーバード大学での2015 FLEATにおいて、京都大学において、伊藤が開発責任を務めた、「何時でも何処でも発音学習できる英語e-learning システム」に関して、その技術担当者と内容を発表する。(伊藤佳世子、仲野基紀、Jeniffer Teeter)
<p>【発表】 (11) リスニング力強化のためにシャドーイングをタブレットやスマホで自主学習できるシステムの構築</p>	-	平成27年8月	外国語教育メディア学会 (LET) 主催	千里ライフサイエンスセンターでの第55回全国研究大会において、リスニング力アップのために学習者の利便性を追求し構築したシステムを紹介する。
<p>【発表】 (12) ディープラーニングを用いたシャドーイング音声の自動評価</p>	-	平成29年	JACET言語教育エキスポ主催	2017年大会において深層学習deep learningを使用したシャドーイング音声自動評価についての検討を発表する。(山内豊、伊藤佳世子)
<p>【発表】 (13) Automatic Scoring of Shadowing Speech based on DNN Posteriors and their DTW (訳: DNNポステリアスとそのDTWに基づくシャドーイング音声の自動評定)</p>	-	平成29年8月	Interspeech	スウェーデン・ストックホルムでのInter Speech 2017において、DNNポステリアスによるGOPとDTWという音声情報工学技術を使ってシャドーイング音声の自動評定を実施し、手動評価との相関を検証した。(Junwei Yu, 山内豊、齋藤大輔、伊藤佳世子、峯松信明、他)
<p>【発表】 (14) Development and Maintenance of Practical and In-service Systems for Recording Shadowing Utterances and Their Assessment (訳: シャドーイング音声の録音と評価のための練習と訓練システムの開発と維持)</p>	-	平成29年8月	Speech and Language Technologies in Education (SLaTE) 2017	スウェーデン・ストックホルムでのSLaTe 2017において、シャドーイング音声の録音して評価するための練習及び訓練のためのシステムを開発し、それを維持するための方法を論じた。(Junwei Yue, 齋藤大輔、峯松信明、山内豊、伊藤佳世子)
<p>【発表】 (15) Investigation of teacher-selected sentences and machine-suggested sentences in terms of correlation between human ratings and GOP-based machine scores (訳: 手動評価とGOPによる自動評定の相関に着目した、教員とコンピュータによる選定文に関する調査)</p>	-	平成29年8月	Speech and Language Technologies in Education (SLaTE) 2017	スウェーデン・ストックホルムでのSLaTe 2017において、学習者のシャドーイング 音声の手動評点とGOPによる自動評定の相関の高さに着目して、教員とコンピュータが選定した英文の類似点と相違点に関して分析を行った。(山内豊、伊藤佳世子、峯松信明、Junwei Yue)

<p>【発表】(16) Automatic evaluation of simultaneous L2 oral reproduction tasks with a deep learning-based algorithm (訳: 深層学習ベースのアルゴリズムを使用した外国語の同時口頭再生課題を自動評価する)</p>	-	平成29年3月	Architectures and mechanisms of Language Processing (AMLap) 主催、	ドイツ・ベルリンでの2017年度International Conferenceにおいて、外国語の同時口頭再生課題を自動評価する時、従来の方法とディープラーニング・アルゴリズムを使用した方法を比較し、後者の優位性を実証した。(山内豊、伊藤佳世子、西川恵)
<p>【発表】(17) 英語シャドーイングの音声収録における諸問題と対策</p>	-	平成29年3月	JACETリーディング・英語語彙・英語辞書研究会合同フォーラム	早稲田大学でのJACET合同研究会において、教室あるいは自宅で、学習者のシャドーイング 音声を収録する際に生じる問題を抽出し、その解決策を提示した。(伊藤佳世子、山内豊)
<p>【発表】(18) 創発的な英語シャドーイング活動に向けて</p>	-	平成29年5月	次世代大学教育研究会	長崎大学での第130回研究会において、従来は学習するテキストをシャドーイング することが中心であったが、よりボトムアップ効果を出すためにはどのようなマテリアルが必要であるかを検証した。(坪田康、伊藤佳世子)
<p>【発表】(19) 日本人大学生に対するシャドーイング音声評価結果の分析</p>	-	平成29年6月	2017年度JACET関西支部春季大会	甲南大学での大会において、学生のシャドーイングデータを音声情報光学技術での分析や基本統計量などを計算し、課題文の難易度や学生が発話できない箇所の分析を行った。(坪田康、伊藤佳世子)
<p>【発表】(20) 多言語に対応したシャドーイング音声自動評価に関する実験的検討</p>	-	平成29年	外国語教育メディア学会(LET)	名古屋学院大学での第57回全国研究大会において、英語のみならず今後、外国語学習者がシャドーイング学習をする際の自動評価の可能性を実験し、検討した。(山内豊、伊藤佳世子、峯松信明)
<p>【発表】(21) シャドーイング自動評価の精度向上と学習者の英語熟達度との関係</p>	-	平成29年	外国語教育メディア学会(LET)	名古屋学院大学での第57回全国研究大会において、学習者のシャドーイングの音声をさらに向上させ、従来の音声自動評価の精度を向上させて学習者に貢献できるように開発した。(峯松信明、山内豊、伊藤佳世子)
<p>【発表】(22) DNN-based GOP Calculated on Shadowing Speeches and Its Approximation to Their Manually Rated Scores (訳: シャドーイング発話で計算されたDNNベースのGOPとその手動評価スコアへの近似)</p>	-	平成29年3月	日本音響学会2017年春季大会	明治大学での2017年春季大会において、手動評価結果と近くなるようにシャドーイング音声についてDNN-GOPを使った自動計算アルゴリズムの調整を実施した。(峯松信明、山内豊、伊藤佳世子)
<p>【発表】(23) 英語発話の繰り返しやすさについて</p>	-	平成29年7月	次世代大学教育研究会主催	函館工業高等専門学校での第135回研究会において、シャドーイング・テキストにおいて語彙の重なり(2語、3語、4語)が増えることで発音の省略、変化の再生にどのように影響するかに関して発表する。(坪田康、伊藤佳世子)
<p>【発表】(24) 日本人大学生に対するシャドーイング音声評価の結果の分析</p>	-	平成29年6月	大学英語教育学会(JACET) 関西支部主催	甲南大学での2017年度春期大会において、学生のシャドーイングデータを音声情報光学技術での分析や基本統計量などを計算し、課題文の難易度や学生が発話できない箇所の分析を行った。(坪田康、伊藤佳世子)

<p>【発表】(25)シャドーイング自動評価開発のための音声データ収集の検討</p>	-	平成29年6月	日本英語表現学会主催	大阪電気通信大学での第46回全国大会において、CALL教室でなく家庭での音声データ収集を円滑にするための工夫を発表した。
<p>【発表】(26)英語シャドーイング音声の自動評価に向けて一教員による評価データの分析を中心に</p>	-	平成29年9月	電子情報通信学会 思考と言語研究会主催	京都工芸繊維大学でのこれまでの音声データを英語教員数名で詳細に手動評価し、再生が困難な部分を分析して発表した。(峯松信明、山内豊、伊藤佳世子)
<p>【発表】(27)DNN-GOPとDNN-DTWに基づくシャドーイング音声自動評価に高精度化</p>	-	平成30年3月	日本音響学会主催	日本工業大学での2018年春季研究発表会において、従来の音声自動評価にさらにシステムの精度を上げるために行った開発について発表する。(峯松信行、山内豊、伊藤佳世子)
<p>【発表】(28)シャドーイングを活用した話すこと(発表)と話すこと(やりとり)活動の設計の一検討</p>	-	平成30年1月	次世代大学教育研究会主催	琉球大学での第138回研究会において、従来のspeechにとどまらずinteractionをも含めた英語の発話のためにシャドーイング実践をどのように実施するかについて発表した。(坪田康、伊藤佳世子)
<p>【発表】(29)Measurement Accuracy Comparison of a New Deep Learning-based Algorithm with a Traditional Algorithm in Automatic L2 Oral Assessment (訳:自動L2口頭評価における新しい深層学習ベースのアルゴリズムと従来のアルゴリズムの測定精度の比較)</p>	-	平成30年3月	American Association for Applied Linguistics (AAAL)	American Association for Applied Linguistics (AAAL) 主催、Sheraton Grand Chicagoで開催された2018AAAL Conferenceにおいて、学習者の音声データを自動評価するうえで、従来の測定方法と新しいディープラーニングのアルゴリズムとを比較し検証し発表する。(山内豊、伊藤佳世子、西川恵)
<p>【発表】(30)話すためのシャドーイングの試みー高校生を対象にして</p>	-	平成30年4月	次世代大学教育研究会主催	京都工芸繊維大学での第141回研究会において、高校生約400名を対象としたシャドーイング実践とテキスト選定について発表した。(坪田康、伊藤佳世子、杉本喜孝)
<p>【発表】(31)シャドーイングを基盤とした英語プレゼンテーション訓練法の検討ーオンラインプレゼンテーションとの連携を中心に</p>	-	平成30年9月	次世代大学教育研究会主催	酒田白バラでの第146回研究会において、プレゼンテーションをするための準備としてのシャドーイングの効果的な実践法について発表する。(坪田康、伊藤佳世子、杉本喜孝、Calbert Graham)
<p>【発表】(32)継続的なシャドーイング訓練が総合的熟達力の伸張に及ぼす影響</p>	-	平成30年8月	外国語教育メディア学会(LET)主催	千里ライフサイエンスセンターでの第58回全国研究大会において、認知負荷の高いシャドーイング訓練を継続することによって言語処理の高速化がはかれるということを検証した。(山内豊、伊藤佳世子、峯松信明、坪田康、西川恵)

<p>【発表】 (33)Development of an innovative multi-lingual system for automatic evaluation of L2 oral reproduction tasks using a deep learning algorithm (訳：ディープラーニング・アルゴリズムを使用した第二言語口頭再生タスクの自動評価のための革新的な多言語システムの開発)</p> <p>【発表】 (34)Practical Shadowing Activities in class with the reflection of CMC with Filipino teachers (訳出：フィリピン人講師とのCMC活動に基づいた実践的なシャドーイング活動の一検討)</p>	<p>-</p> <p>-</p>	<p>平成30年3月</p> <p>令和元年8月</p>	<p>Architectures and Mechanisms for Language Processing (AMLaP) 主催</p> <p>EUROCALL主催</p> <p>次世代大学教育研究会主催</p>	<p>ベルリン Titanic Hotel Chaussee での2019 International Conferenceにおいて、ディープラーニング・アルゴリズムを使って外国語口頭再生課題に対して言語非依存で自動評価できるシステム構築に関する理論と開発について論じた (山内豊、伊藤佳世子、峯松信行、坪田康、西川恵)</p> <p>ベルギー KU LeuvenでのEUROCALL2019において、教室で一斉シャドーイングをした結果をフィリピンの英語教員が評価した結果と分析について発表。(坪田康、伊藤佳世子、杉本喜孝、Sandra Healy) *本発表においてBest Poster Awardを受賞した。</p> <p>沖縄で開催された第163回研究会において、シャドーイング学習時の音声データの学習支援、評価支援としてGoogleのクラウドサービスで音声認識技術を利用可能なGoogle Cloud Speech to Text APIを利用できるかについて検討し発表する。(坪田康、伊藤佳世子)</p>
<p>【発表】 (35) 音声認識技術を利用した外国語スピーキング活動の一検討—Google Cloud Speech to Text APIを利用して—</p>	<p>-</p>	<p>令和2年1月</p>	<p>次世代大学教育研究会主催</p>	<p>沖縄で開催された第163回研究会において、シャドーイング学習時の音声データの学習支援、評価支援としてGoogleのクラウドサービスで音声認識技術を利用可能なGoogle Cloud Speech to Text APIを利用できるかについて検討し発表する。(坪田康、伊藤佳世子)</p>